

会報 山口七夕会

令和6年(2024年)9月

第55号

発行：会報編集委員会/事務局

題字/書・原野和夫氏



< 目 次 >

秋草会長挨拶	3
令和6年度山口七夕会年次総会の報告	4
令和6年度山口七夕ふるさと山口本部総会&「夏の講演・交流会」の報告	6
第8回山口七夕会ふるさと山口本部音楽祭 輪-RIN-～音楽とパエリアの夕べ～の報告	7
山口市が思い出に残る大切な故郷であり続けるように	8
七夕のちょうちんを見るたびに	9
山口七夕会の運営に関する意見	10
【リレーコラム:ふるさとの味めぐり】～山口県の新しいお土産「チョコットー」～	11
【ふるさと大使より】世界に広がる『大内の殿様』のおどりの輪	12
山口祇園祭女神輿	14
スペイン・ナバラ州・ナバラ県・パンプローナ市『Parque de Yamaguchi(山口公園)』回顧録	15
日本とベトナムの幼児教育の違いを音楽の視点から見て	16
SNSへの投稿で再認識した山口県の魅力	17
山口に恋して	18
外から見る山口の世界	19
関周さんコンサート♪～『まり祭』にて～	20
毛利藩の家紋	21
山口県の学校給食パンは県産原料 100%	22
新入会員及び法人会員の皆さん／新任・再任の山口七夕ふるさと大使委嘱者	23
役員一覧	24
各種イベント等のお知らせ	25
<山口市役所より>世界に紹介された「西の京やまぐち」の魅力について	26
投稿募集／公開会員名簿への掲載承諾のお願い／メールアドレス登録のお願い	28
事務局からのご案内／編集後記	29

※会報は山口七夕会のHPにもアップします。カラー版をHPでお楽しみください。

会長挨拶

新しい動きが山口市に



この夏は3年ぶりにオリンピックも開催され世界中で「コロナ後退」の印象が強くなりました。ただ一部では、また新型コロナが流行っているとの情報もあり、気を抜かず過ごして下さい。一方で山口市は今春ニューヨークタイムズ誌に「今年訪れるべき世界の都市」として取上げられ、大内文化と山口市に注目が集まりつつあります。東京都世田谷区三軒茶屋での催し参加をきっかけに結成された七夕会も25年になり、ますます充実してきた感じがします。

去る8月3日、猛暑の中で七夕会総会が開催されました。山口市から伊藤市長、吉村総合政策部長、山田商工振興部長他山口市幹部職員の方々、入江市議会議長、眞砂市議会事務局長、清水山口県東京事務所長、ふるさと山口本部の申神さん、庄さんや、多くの会員の皆さんが参加されました。まず藤井副会長から令和5年度事業報告・決算報告・監査報告と令和6年度事業計画・予算の説明が行われました。続いて伊藤市長から山口市の一年のトピックスが紹介されました。決して大都市でない山口市が元気な姿で頑張っている様子、大内文化の象徴とも言える国宝五重塔の改修状況、そして来年はいよいよ山口市役所が新庁舎で活動開始する予定などが紹介されました。また、今年5月3日から山口線に戻ってきたD51に続き、修理中のC57も元気になってD51との重連が見たいとの鉄道愛好家達の胸を打つ話もあり、会場を盛り上げました。続いて入江市議会議長ご祝辞、清水山口県東京事務所長ご祝辞を頂いた後、ふるさと大使の任命が行われ総会の第一、第二部が終了しました。

続いての講演会では、元・気象庁長官関田康夫様から「気象の予測と防災」と題するお話を伺いました。通常では拝聴出来ない専門的な気象のお話を分かり易く丁寧にお話し下さいました。異常気象が続く昨今ですので、会員の皆さんも興味深く聞いておられました。

七夕会は会員皆さんの各種イベントの実行・参加に支えられています。ただ従来のやり方に拘らず、新しい考え方を導入していくことも大切です。今回の総会でも「7月または8月」という開催時期の会則規程を削除・改正し、開催時期を自由に変更できる様にしました。今後も「会員相互の交流」を通じて「ふるさと山口の発展に寄与する」という目標に向け、会員の活動をお願いします。総会、交流会、ウォーキング会だけでなく、七夕会幹事が若い人達と過去に捉われない企画を考え、実行して頂くことが大切です。新しいネットワークで若い人達に七夕会の企画への参加を呼び掛けています。若い人達が七夕会を更に盛り上げて下さり、新しい形での七夕会の運営をお願いする次第です。

最後に七夕会の機関紙「会報」に皆様からのご寄稿をお願いします。特に「ふるさと山口市の発展に寄与する」為に今後とも七夕会を通じて、会員皆様のご協力とご支援を賜りたいと思います。

令和6年(2024年)9月

山口七夕会 会長 秋草史幸

令和6年度山口七夕会年次総会の報告

本部・本部長代行 西村 弘文（会員No.464）

いつにも増して暑さが身体に堪える令和6年8月3日（土）、山口市から伊藤市長、入江市議会議長をはじめとする幹部及び事務局の方々をお迎えして、飯田橋のインテリジェントロビー・ルコにて令和6年度年次総会が開催されました。総会は出席者35名、委任状提出者33名でした。講演会と交流会には68名が参加しました。

開会にあたり、この1年の間に逝去された会員への黙祷を行った後、会長の開会挨拶から始まりました。秋草会長は、暑い中での参集に感謝する旨と、コロナの再拡大懸念や金融不安といった不穏な空気を払拭するために「絆」が大切であり、今日は山口の香りを感じる場にした旨、述べました。

総会第一部では、令和5年度の事業と決算について藤井本部長と申神ふるさと山口本部長のそれぞれから報告がなされ、また大枝監査役から監査報告がなされ、異論なく承認されました。続いて令和6年度事業計画案及び予算案についても同様に承認され、更に交流会への補助等の活動実態を見えやすくするために交流会等経費から参加料に係る記載を除くことが併せて承認されました。その後、秋草会長から緊急動議があり、酷暑時期での総会実施を避ける自由度を確保する目的で、会則を変更（実施時期を削除）することについても承認されました。来年から年次総会は真夏を避けての開催となるかもしれません。最後に新旧役員の交代が報告されました。

総会第二部は、宮原企画経営課長の進行により進められました。伊藤市長から、山口七夕会が25周年を迎えたことへのお祝いと、山口市への熱いエールに対して感謝する旨の挨拶の後、市政報告がテンポよくなされました。市政報告では、ニューヨークタイムズ紙による「2024年に行くべき52カ所」に山口市が選ばれたことに関連して、同紙に推薦してくれたクレイグ・モド氏（ライター）と対談した際、鎌倉に20年住んでいたモド氏が「例えば、レコードというA面が京都や金沢、広島だとすると、山口と盛岡には地方都市が持つ奥ゆかしい美しさと言うかB面に収録された名曲のような魅力がある」と語ったこと、市長がニューヨー

クを訪問した際、挨拶のためにニューヨークタイムズ紙本社を訪問し、52都市選定に1枚の写真（紅葉の龍福寺）が決め手となったことを知ったこと、東洋史学の大家であるプリンストン大学のコンラン教授と大内氏の魅力についてディスカッションしたこと、2026年JRステイネーションキャンペーンの山口県での開催が決定したことに関連し、SLやまぐち号の運行が2年ぶりに再開されたこと、湯田温泉では全天候型の大屋根広場を備える「湯田温泉パーク」の整備の他、風情ある温泉通りの整備に取り組んでいること、現在建設中の新市役所新本庁舎棟の供用開始が来年のゴールデンウィーク明けを予定していること、山口ちょうちんまつりにおいて「ちょうちん山笠」と「ちょうちん神輿」が6年ぶりに復活すること、等々が報告されました。

入江市議会議長の祝辞では、協力への感謝と、山口市に関する情報を引き続き広く発信して欲しい旨、また、「行くべき52カ所」に選ばれて山口市の魅力を再認識したと同時に、観光客が来山する機会を活用するべく「おもてなしの街づくり」に努力する旨が述べられました。

清水東京事務所長の祝辞では、会の益々の発展祈念と日頃からの情報発信へのお礼の他、近日予定されている東京周辺での山口県関連行事が紹介されました。

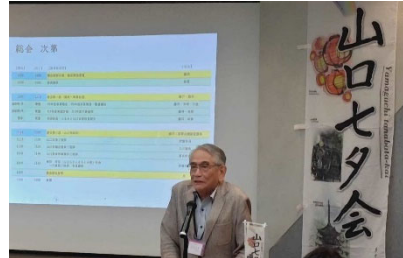
山口七夕ふるさと大使への委嘱式では、新任の杉山 敏美さん、再任の大枝 幹夫さん、藤井 邦夫さん、山根 和也さんに伊藤市長から委嘱状が手渡され、代表して杉山さんから大使就任の挨拶がありました。

講演会では、第26代気象庁長官の関田 康雄さんから「気象の予測と防災」の演題で、どうやって予測して、どうやって防災に活用しているかというお話を伺いました。はじめに「ハー

ド防災」と「ソフト（情報）防災」について述べられました。河川改修や砂防ダム等のハード防災は災害防止の効果が高いものの、ハザードの強度によっては防災効果が減少する。一方、自然災害の情報を活用して事前対応や応急対策を実施するソフト防災による減災も重要であり、各人の情報収集と適切な行動をとる継続的な努力が必要であることが強調されました。「気象の予測」については、予報手法は確立しており、根幹となる数値予報モデルの精度向上が重要であること、数値予報に使用するコンピューターの演算速度は運用開始から50年の間で1兆倍に向上していること、静止気象衛星により日本を面的且つほぼ継続的に観測できていること、とはいえ高度毎の水分量といった大気の状態を完全に知ることは出来ず、また、バタフライ効果もあり、予測対象地域の小スケール化や強度変化の精緻予測には限界があることが述べられました。「線状降水帯」については、未だ発生して維持されるメカニズムが十分解明されておらず、予測精度向上に向けては①大気下層の水蒸気の動態を正確に捉える、②予測モデルの精度を上げる、③予測の不確実性を踏まえた情報を提供する等の取り組みが必要だと述べられました。「防災情報」については、シンプルで分かり易くする観点で防災気象情報の体系整理が行われていること、「キキクル（WEB版とアプリ版）」を見れば、直近の危険度が地域単位で視覚的にすぐにわかるように整備されていること、等が述べられました。「防災への活用」では、気象庁の観測と予測が政府並びに自治体での防災対応に活用される枠組みや地域防災支援業務の内容について述べられました。自然災害が頻発する昨今に機宜を得た講話でしたが、個人が出来る対策として、前述の「キキクル」を活用したソフト防災に心がけたいという思いを強く抱きました。

交流会は関幹事長の司会により、いつものように和気藹々とした雰囲気が進められました。この機会を活用して山田商工振興部長から山口市ふるさと納税の案内がありました。会場の一角では山口市特産品のPR販売も行われ、在京の出向者を含めた山口市の若手職員が取り仕切っていました。また、会員の浦前さんが知人を誘って参加してくれており、心なしか若

者？の比率が高い交流会になりました。アトラクションとして、竹内酒造場ご提供の日本酒、山口市役所ご提供のシードルと林檎ジュースを賞品としたじゃんけん大会、吉田さんによるアカペラ、浦前さんの同伴者によるスピーチ等が交流会を盛り上げた後、吉村総合政策部長の一本締めで中締めとなりました。



【秋草会長開会挨拶】



【伊藤市長市政報告】



【入江市議会議長祝辞】



【清水東京事務所長祝辞】



【市長、議長と大使の皆さん】



【関田氏の講演】



【じゃんけん大会】

令和6年度山口七夕会ふるさと山口本部総会&「夏の講演・交流会」の報告

ふるさと山口本部・事務局長 庄 栄一郎（会員No.475）

令和6年8月10日（土）18時から、セントコア山口で73名の参加で開催された。東京からの参加、学生の参加もあり、相互の絆を深めることができた。また神田さんの渋沢栄一伝の講演では、「会社を作ってお金もうけをするには、正しい目的と道徳的な考え方が伴わないといけない」こと等を学んだ。

始めに総会を行い、申神本部長の挨拶、伊藤市長からのご祝辞の後、市長から「山口七夕ふるさと大使」に新任された山口市在住の末富喜昭さんに委嘱状が交付された。

8月3日に開催された「山口七夕会年次総会」の報告は、申神本部長より3倍速で行われた。

18時15分より、「立てば芍薬、座れば牡丹、歩く姿は百合の花」、講談界のレディ・ガガと呼ばれる神田京子さんの講演。演題は、芸歴25周年!!「講談 渋沢栄一伝」を新一万円札にちなんで1万人に伝えるプロジェクト!!大行進中!神田京子の大挑戦とは!!。

神田京子さんは山口市に移住されて5年。山口市の印象として、「詩に理解のある街」、「余白が多い県庁所在地」、「山口駅を降りたら山があって空がある」、「溢れかえったものを整理したら山口市になる」と。

その後に「講談 渋沢栄一伝」をギュッと凝縮して講演。500の会社を立ち上げ、600以上の社会事業に携わった渋沢栄一。ただ順風満帆であったわけではなく、発展の裏には必ず犠牲が伴うこと、良かれと思ってしたことにも不満を持つ者がいること等、見えない所まで思いをはせることができた方。その根底に流れる考えは「見えぬものでもあるんだよ」と詩を読んだ金子みすゞと同じ。渋沢は91歳で亡くなるまで「皆さん、合本主義を勉強して下さい。会社を作ってお金もうけをするには、必ず正しい目的と道徳的な考え方が伴わないといけない」、と講演して回った。

神田さんは「講談 渋沢栄一伝」を来年7月までに1万人に伝える挑戦を展開中。今回の講演で73人増えて2500人を超えた。来年2月24日、KDDI維新ホールで大内義弘伝から渋沢栄一伝までの歴史エンターテイメントを企画。1700席を一杯にしたい。世の中が明るくなるために頑張っていきたい、と締めくくられた。

同会場では19時15分から交流会。

入江議長の乾杯のご発声で開会。高村正大衆議院議員、杉田水脈衆議院議員からもご挨拶をいただいた。

山口県と山口市に盛り上がっていただくために、と山口市と姉妹都市でもあるスペインのナバーラの高級ワインを東京ラマンガコーポレーションの柳社長（徳地出身）よりご協力いただいた。また法人会員の竹内酒造場様から日本酒の提供もあった。

余興はまずはスイカの重量当てクイズ。幹事の関さんより提供していただいた巨大スイカの重量を当てるクイズ。重さ14.9kg、高村先生が見事的中。その後恒例のじゃんけん大会。旭水産様、竹内酒造場様、(株)原企画様、セントコア山口様、関さんより協賛をいただいたこともあり、今回はふるさと山口本部史上、最高の数の豪華賞品をそろえた大ジャンケン大会となり、参加者の半数以上の方に賞品がゆきわたり沢山の笑顔が見られた。

最後は「ふるさとの風～山口市民の歌～」を全員で合唱。

21時00分、松西副本部長による中締め的一本締めで会を閉じた。

集合写真では皆でNHK大河ドラマ「青天を衝け」で主人公の渋沢栄一の青天を衝くポーズをした。



【神田京子さんの講演】



【ナバーラの高級ワイン】



【「青天を衝け」のポーズ】

第8回山口七夕会ふるさと山口本部音楽祭 輪-RIN- ～音楽とパエリアのタベ～の報告

ふるさと山口本部・音楽部会長 山下 りえ子（会員No.724）

令和6年5月25日(土) 18時より山口市大内御堀、山口日産自動車本社ポルシェセンターにて第8回音楽祭輪-RIN-が開催されました。100名の参加と天候に恵まれ、素晴らしい会となりました。

まず、なぜ音楽祭とパエリアなのか。これは山口日産の末富会長(七夕会法人会員)の深い思い入れにあります。

たまたまスペインの旅先で彼が出会ったパエリアがとても美味しかったことに始まります。時を経て東京で食べたパエリア。これがスペインで食べたあの味。なんとスペインのその店で修行していた栗原靖武氏のお店だったのだそうです。

ぜひあのパエリアを山口でも。そこに、これまた偶然に栗原氏と一緒にイベントの仕事をしていた七夕会員の浦前忠彦氏の存在がありました。

末富会長のふるさと山口への熱い想いと、栗原氏・浦前氏のご尽力で、音楽とパエリアのタベが実現しました。

山口市大内御堀から文化を発信した夜でした。

《第一部 ゲストステージ》

山口県庁グリークラブ 15名の皆様による40分のステージ。結成38年という歴史と伝統に裏付けされ、音楽的技術はもちろん、ステージ構成も抜群。山口市出身の詩人中原中也の詩「冬の長門峡」の歌、お笑いもあり、最後は男声合唱の神髄「死んだ男の残したものは」などあつという間の40分、圧巻のステージでした。



【山口県庁グリークラブの圧巻のステージ】

《第二部 パエリアステージ》

福田百合子 中原中也記念館名誉館長の乾杯でスタート。栗原氏のパエリアは2種類。長州鶏や松西ふるさと副本部長生産の野菜が使われました。パエリアの調理はショールームの半野外で行われ、夕暮れ空と相まって美しい景色となりました。また、浦前氏のご厚意により大量のビールをご提供頂きました。



【海鮮パエリア】



【鶏と野菜のパエリア】



【東京のエルトラゴンの栗原シェフの挨拶】

セントコア山口さんによるケイタリングも、いつもながら大好評。山口県のスーパー、ミコーさんのご協力で大変美味しいお肉も提供されました。

山口日産ショールーム1Fの会場には、ポストピアノが置かれていて、末富会長のご厚意で自由に使用して頂くのが恒例の第2部。今回も地元の著名なミュージシャン、演奏家がたくさん演奏しました。かなりのハイレベルに、無料で聴いていいのかという声もあがったほどでした。

運営に関わって下さった方々の熱意で素晴らしい会になりました。発想・会場提供の山口日産末富会長、栗原シェフと七夕会の調整をしてくださった浦前会員、栗原シェフのお世話のセントコア山口安田支配人、増本料理長、栗原シェフ、県庁グリークラブの皆様、殊更に御礼申し上げます。山口市を愛する人が集い、山口から音楽、食、文化を発信するというとても意義のある会を、次回もさらに盛り上げて参りたいと思います。

山口市が思い出に残る大切な故郷であり続けるように

ふるさと山口本部・本部長 申神 正子（会員No.477）

令和3年度の総会から山口七夕会ふるさと山口本部本部長の大役を拝命し、はや3年が経過いたしました。

ふるさと山口本部長として活動してきましたこの3年間で感じましたことをつらつらと綴ります。

私は萩市に生まれ、約18年間を萩市で生活し高校卒業とともに萩市を出ました。しばらくは学業、仕事と忙しくしており、故郷には正月くらいにしか帰省しておりませんでした。

10年前に実父は亡くなりました。その後独居だった母も介護が必要となり埼玉の兄のもとに移住したこともあり、このたび萩の実家を引きあげ、墓終いし、帰省し眠る場所「実家」を手放しました。

子育ても仕事も時間の余裕ができた56歳の今、ことあるごとに最近萩に立ち寄り、懐かしき風景を実感するのですが、幼少期から過ごした、記憶に残る萩の町も様子は変化しています。町そのものが古びていたり、懐かしき喫茶店がもはや廃業していたり、道も変化したりと、浦島太郎状態となることも度々あります。そして、夜は実家の畳で寝ることもなく、萩のホテルに宿泊です。丁度今年も萩の花火大会に合わせて萩入りしたのですが、宿の畳、宿の食事、まるで旅行者です。

その後、東京本部での総会があり、山口ゆかりの方々とお話して気が付いたことがあります。東京で生活なさっている七夕会員の皆様は、山口市で幼少期から思春期を過ごされ、私が「萩市」について感じたと同じく、記憶の中では「山口市」は、若かったころに五感で感じた山口市の記憶が鮮やかに残っておられる。

町は、生きています。古くなり時代にそぐわなくなっていたり、新たに創造したりと、変化し続けています。

そこで生活する人間も新旧交代があり、新たにその町の魅力を発見しながら今その町で生きている人々がいます。萩市にしろ、山口市にしろ、今生活している人々は、町を大切に思いながら頑張っています。町に残る歴史を感じ、温故知新の精神を持ち、町は、人は、生き続けています。

変化していく故郷と、記憶に残る故郷を思うときに「ちくん」と胸の奥に少しの寂しさを感じながら、思い出に残る大切な故郷がずっとずっと生き続けてほしいと思う気持ち、これは、故郷を離れた自分が萩市に対して持つ気持ちです。

そして、その気持ちに気付けたからこそ、「山

口市」を大切な故郷として思い続けてくださっている方々に対して、今の山口市で日々生活している私たちは、愛すべき山口市を「生き生きと輝き続ける」町であるようにと、工夫し頑張っていきたいと思うのです。

私はすでに萩で暮らした年数よりも長く山口市で生活しています。この山口市で生まれた我が愚息は、山口市が故郷となります。その故郷を、彼の記憶に残る町であるようにと母は、山口市を愛し育て続けます。

これからも、故郷山口の温故知新を、ふるさと山口本部からお伝えしていきます。いつまでも、「山口市」を思い続けてください。そして、時々、進行形のふるさと山口の風景と人に、逢いに来てください。「ようお帰りなさいました！」でお迎えいたします。



【七夕会会員とちようちん祭の火入れ作業の手伝い】



【FBプロフィール写真は山口七夕ちようちん祭り】

七夕ちょうちんを見るたびに

相山 俊哉 (会員No.579)

今年も山口市の夏が、七夕ちょうちんで彩られました。この七夕ちょうちんこそが、山口七夕会のルーツであることをご存じでしょうか。近年会員になられた方も多くいらっしゃることから、私が本部長（東京）時代に諸先輩方から受け継いだ、山口七夕会誕生に至るまでの七夕ちょうちんと山口七夕会との深い関わりについてしたためます。

1. 1999年に東京で発足した七夕会

1993年、東京都世田谷区の馬事公苑で開催された世田谷区民まつりに、七夕ちょうちんがお目見えします。仕掛けたのは、「ふるさと山口本部」の馬越尚史さんを中心とする山口商工会議所青年部の皆さんであり、東京で山口七夕ちょうちんまつりを再現し、山口市をPRすることが目的でした（詳細は七夕会会報第6号をご参照ください）。



その後も区民まつりでの七夕ちょうちんの飾付（写真ご参照）は続き、東京近郊の山口市ゆかりの有志の皆さん

によるちょうちんへの火入れも行われました。しかしながら、諸般の事情により、山口市に関わる七夕ちょうちんの飾付は取りやめとなります。ところが、火入れに集まっていた有志の皆さんの心の火は消えず、山口市の絆を繋ぎ続けたいとの思いから、1997年12月、山口七夕会設立の企画が持ち上がり、1999年2月、山口七夕会設立総会が開催され、東京に山口市の愛郷会「山口七夕会」が誕生します。

なお、東京には山口県ゆかりの会「防長倶楽部」があります。他県においても東京を中心に県人会や同郷会、学校の同窓会が存在します。しかしながら、市を単位とする市ゆかりの同郷会、愛郷会である山口七夕会は、非常に珍しい存在です。

2. 本部(東京)とふるさと山口本部

東京で発足した山口七夕会の当初の会員は、大半が関東圏にお住まいの方々でした。その後、山口市へ戻られる会員もいらっしゃり、山口市でも七夕会会員で集まりたいという声が高まってきたことから、2012年に山口支部が設立されます。2014年には山口支部を山口本部とし、更に2018年に「ふるさと山口本部」と名称が変わります。今では山口市近郊にお住まいの「ふるさと山口本部」に縁が深い会員数が、「本部(東京)」を含む県外会員数を上回っています。

七夕会では年に一度東京で、市長や市議会議員、

「ふるさと山口本部」の役員も参加する年次総会が開催され、議案の審議や報告が行われます。その後、ふるさと山口本部でも総会が開催され、年次総会での決議内容などが報告されます。過去の会報等に目を通しますと、東京近郊の七夕会会員は、七夕会を通じてふるさと山口市との接点ができたことを大変喜ばれ、七夕会会員として山口市の役に立ちたいとの思いを、多くの会員が語っていらっしゃいます。私も本部の役員として、多くの方に山口市のことを知って欲しい、山口市を訪ねて欲しい、山口市のファンを増やしたいとの思いで活動しておりました。その思いは、山口市を離れた多くの会員の皆さんに共通するものではないでしょうか。だからこそ、20年以上前に馬事公苑での火入れに集まった有志の皆さんと同様に、東京近郊で山口市が主催するイベントがあれば、そのイベントを支えるために有志の皆さんが駆け付けます。

一方の「ふるさと山口本部」は、市内21地域の新たな会員へと人の輪を広げ、交流会などの各種イベントを通じて山口市との縁や絆を深めながら、事務局と連携して市民目線で山口市と「本部」を支援します。この「ふるさと山口本部」の一体感とエネルギーが、「本部」とともに山口七夕会を支える太い柱であり、ひいては山口市の大きな力となっています。

3. いつでもどこでも誰であっても

七夕会の入会資格はシンプルです。住所地や出身校も、職業、役職、年齢も全く関係ありません。山口市出身でなくても、山口市に何らかのご縁や興味があり、山口市を第二、第三（それ以上でも）の故郷として愛して下さる方であれば、大歓迎します。「山口愛」にあふれる皆さんが山口市のことを想いつながる会、お互いを個人として尊重し、肩書抜きの「さん付け」で呼び合う仲間が気軽に楽しく集う会、それが七夕ちょうちんをきっかけとして誕生し、長い歴史を持つ山口七夕会です。



山口七夕会の運営に関する意見

益本 圭太郎（会員No.785）

執行部・役員の方々には各自仕事をお持ちの中で、七夕会の運営にご尽力頂いており、心より感謝します。

七夕会会報 第 54 号（令和 6 年 6 月発行）において、山口市への提言が掲載されました。

提言という行動をされましたことは、七夕会として一歩前進であると、ありがたく思っています。この提言をきっかけに、運営について検討すべき事項が二つあると気づきました。それは、役員の判断だけでの七夕会の提言の可否、すなわち提言を行う手続きに関してであり、もう一つは、会員が声・意見を表明する場がないということです。

まず、後者について、現在、会員の声を受付ける場は、会報への投稿と年 1 回開かれる東京での総会しかありません。東京会員だけの時代はそれで十分でしたでしょうが、ふるさと山口本部の会員は東京まで出かけることは重荷であり、声・意見を反映できる場がないに等しい状況です。個人情報保護から役員の連絡先も分かりません。

会長が山口に来られるときは、山口本部の役員の方々との意見交換はされているでしょうが、山口本部の行事に出席するなど会員との交流は図れないものでしょうか？また、事務局を通じて役員に声を届けることができるのでしょうか？いずれにせよ、声・意見を反映できる場を設けることが必要ではないでしょうか？

次に、提言の手続きについてですが、今回の提言に際し、会員には事後報告でした。七夕会会報第 52 号において、私は七夕会の提言を提案していますが、「会員から問題が提起されれば、役員の方々が判断するか、問題によっては、会員からメールで意見を聞くなど」と手続きのことも触れています。

会員からの個別提言については、全員の意見を聞くまでもなく、役員が判断されて、「会員 A から提言があったので七夕会として伝えます」で十分と思います。しかし、七夕会として提言する場合は、「会として提言したい、提言の可

否・内容について会員皆様の意見は？」と会員に意見を聞くことは必要なのではないでしょうか？とはいえ、そのために、全員に手紙を出すことは経費と時間の問題から必要ないと思います。手段としてメールがあります。メールの登録の目的を明確にすれば、登録をしない会員は意見の聴取を望んでいないと判断できます。

いずれにせよ、七夕会としての意思表示をするときは、役員のみで判断するのではなく、必要に応じ会員の意見を聞く（会員の意見に従うことを意味してはいない）ことが必要だと思います。

今回の観光提言に関しては、細部において私と意見が異なる部分はさておき、表現が明らかに不適当な部分もあります。さらに、諮問・対応委員会の創設については、提言とは意見が異なり、市役所ではなく七夕会においてこそ柔軟かつ奇抜な施策の提言ができると思います。

最後に、今後とも役員の皆様方の運営により、また、それに会員も呼応する形で七夕会が益々活性化することを祈ります。



【ふるさと山口本部・夏の講演交流会(筆者は中央後)】

【リレーコラム：ふるさとの味めぐり】～山口県の新しいお土産「チョコットー」～

酒向 淳子（会員No.775）

湯田温泉駅近くの下市町でLAWAKU（楽和空・らわく）という和菓子販売と和 문화体験ができる山口市唯一のカフェをやっています酒向です。「若者向けの山口の土産がほしい」という声と「山口市はチョコレート消費額が日本一になったことがある」ということにヒントを得、山口の魅力をチョコレートを通じて世界に発信しようという熱い思いから「チョコットー」は誕生しました。

このプロジェクトは、「ショコラ de やまぐち」の森重さんとLAWAKUの酒向が中心となり、県内企業の協力を得て作りました。

元々は、山口市にあるKDDI 維新ホール内「アカデミーハウス」で開催されたチョコフェスの目玉商品として開発された和菓子であり、若者がお土産として友達に持って行きたくなるようなオシャレなお菓子を目指して作りました。

最初は、LAWAKUの人気商品である琥珀糖にチョコをつける案で依頼がきましたが、より「山口らしさ」を追求するため、「フグ」のイメージを取り入れることにしました。しかし、フグの粉末では魚臭さが気になるうえ、インパクトに欠けるため、代わりにコラーゲンを使用することに決定。コラーゲンは現代の健康志向に合致し、さらに琥珀糖の固まる性質とも相性が良いという理由から採用され、「チョコットー」が誕生しました。

パッケージにも山口の魅力を詰め込み、県内企業の協力を得てフグをイメージしたサイコロ型のデザインに仕上げました。尻尾を紐で表現し、見た目もオシャレで可愛らしい仕上がりになっています。中の味は、抹茶、ブルーベリー、クランベリーの三種類と、あえて味をつけていない一種類を用意しました。全ての味にフレーバーを付けてしまうと、フグが含まれていないと誤解される恐れがあるため、無味のものも取り入れました。このフグ琥珀糖にチョコをかけることで、フグの臭みがなくなり、食感も琥珀糖とは異なるプルプルとした独特のものになりました。

さらに、今年1月に米紙ニューヨーク・タイムズが発表した「2024年に行くべき52カ所」に山口市が選ばれたことを受け、急遽パッケージにQRコードを追加し、英文の説明も取り入れました。「チョコットー」は全て手作業で丁寧に作られており、製造には手間がかかるものの、唯一無二の商品として地域を盛り上げていくことを確信しています。山口では、フグが「幸福」の「福」に掛けて「ふく」とも呼ばれ、幸福を呼ぶ魚として古くから愛されてきました。皆さんに幸せになってほしいという願いも込めて作っています。

今年2月に開催された「チョコフェス」では、400人が並び、3600人が来場し、即完売となりました。現在では、半年間で約1300個を販売し、道の駅や旅館、お土産店などで取り扱いが増え続けています。

「チョコットー」の魅力は山口県内だけでなく、さらに広い地域へと広がっています。マルシェ出店も増加し、広島、福岡、そして東京にも出店することで、山口の魅力を各地で発信しています。これにより、山口の特産品として「チョコットー」が多くの方々に親しまれ、地域活性化の一助となることを目指しています。



【フグをイメージしたサイコロ型のパッケージ】



【チョコットーはトラフクコラーゲン入り】

世界に広がる『大内の殿様』のおどりの輪

山口七夕ふるさと大使 花柳 寿寛福（会員No.617）



山口祇園祭のお中日 7月24日の夜、中心商店街から八坂神社御旅所にかけて、山口市民総踊り『大内の殿様』の大きな踊りの輪がうまれ、おどりとかけ声で、街は活気に満ちています。

今年は、新たな団体や白狐刑事ジコンナさんも加わり 31 団体 1,500 名を越える踊り手に、ニューヨークタイムズ効果かカリフォルニア州から来られた家族連れや韓国からのご一行等、海外からの来場者も見受けられ、一層活気に溢れていました。

『大内の殿様』は、現在の山口の礎を築いた大内氏の功績を讃え、山口の歴史、文化をあらわす市民総踊りとして、小さなお子さんから、ご高齢の方まで踊りやすいようにと父であり師匠である二代目花柳寿寛が振り付けの依頼を受け、長年にわたり運営やご指導に携わらせていただいています。

このおどりは、市民総踊りから始まり、各幼稚園、小学校、中学校の行事や盆踊り等の地域のお祭りへ広まり、山口市民の皆さんを中心に広く愛されています。学校内に限らず、お子さんたちも山口市民の一員だと感じてほしいと教職員と保護者が一体となり学校単位で総踊りに参加されたり、国際交流の場でも踊られ、言葉を越えた交流も生まれ、私たちがおどりに込めた想いは確実に根を下ろし、嬉しく思っています。

2011年東日本大震災の際は、山口から元気と活気を発信しようと、よりアクティブな振りも生まれて、どんどん活気が増しているところでしたが、コロナ禍では STAY HOME や様々な制約が当たり前になり、街から活気が失われました



世界中を不安な想いが覆い尽くす中、フランシスコ・サビエル生誕 500 年の際にナバラ州で皆さんと楽しく踊ったように、山口の姉妹都市の皆さんと『大内の殿様』を踊りたいと、当時山口市国際交流員だったマリア・ルビオ・カロさん、山口県国際交流員で現在山口市国際交流員のヘマ・ガルベス・ルイスさんと一緒に、



オンラインWSイベント『Feel Yamaguchi 大内の殿様おどろう会』を行うことにしました。

とはいえ、オンライン配信の経験はなく、機材も iPad mini 一台だけ、右も左もわからないけれど、何処にしようとも同じ時間を一緒に過



ぎしているという一体感を分かち合いたい一心で、山口市、山口県、山口県立大学、市民活動団体等にも協力いただいて、各国の大使館や領事館も情報をシェアくださり、思いがけず多くの国や地域からのご参加のもと開催することが叶いました。

小さな画面の中で、初めて会う国内外の方々が一緒に楽しそうに踊っている姿は、とても美しい経験でした。会話も楽しく、お母さんがつくった着物を着て日本が好きと嬉しそうに話す女の子や、山口のことは初めて知ったが、日本に行くときは必ず山口に行きたいとお話してくださるご家族等もいらっしゃいました。



祇園祭の起源が疫病退散の願いからとのことで、7月24日には八坂神社御旅所で正式参拝と、世界中から



送っていただいたおどり映像とリアルタイムでのおどりをオンライン奉納舞踊として行い、皆さんでコロナ禍の収束を願いました。



手探りで少しずつ改良しながら続けるオンライン活動は、気がつけば36の国と地域からのべ1,000人越える皆さんに参加

いただきました。

コロナ禍も過ぎ、フェーズは変わったものの、年に一度でも世界中の皆さんと『大内の殿様』で交流したいとのご希望もあり、今年アメリカハワイ州、スペインナバラ州、パンプローナ市に向けて開催しました。



これまで、スペイン語、英語、ロシア語と開催していましたが、はじめてナバラ州の公用語の一つバスク語を加え、スペイン語、日本語の3つの

言語で行い、開催にあたっては、3月に来県されたナバラ州 第二副首相兼記憶・共存・外務・バスク語大臣アナ・オジョ・ウアルデ氏にご参加くださり、ナバラ州政府のバスク語の取り組みや状況と言語レクチャーをしてくださいました。このことは気付きや発見も多く、この活動の新しい可能性を感じました。

また、ハワイとの新たな交流団体 Hui Aloha Yamaguchi の最初の活動にもなり、「Aloha～」 「Mahalo～」とハワイの言葉も飛び交いました。



皆さまにお支えいただいていたの小さな活動ですが、山口七夕会の皆さまにご推挙いただき、伊藤和貴山口市長より「山口七夕ふるさと大使」を受嘱いたしました。

『大内の殿様』をおどる事は、リアルとオンラインのいずれでも、山口の歴史、文化を基軸に国内外の皆さんとつながる機会であり、参加して下さった方が、国内だけでなく海外からも山口にお運びくださる、オンラインがリアルなご縁にもつながる機会でもあります。

来年は、山口を愛する山口七夕会の皆さまには、ぜひ溢れる山口愛を世界中の皆さまと分かち合ってください、お一人お一人が山口の魅力の発信者として、お力添えをいただけますと幸いです。

皆さまとお目にかかれます事を心待ちにしております。

写真 **A**：山口市民総踊り（中心商店街）伊藤和貴山口市長、河村利夫山口市ふるさとまつり実行委員会実行委員長、白狐刑事ジコンナさん、花柳寿寛先生、佳枝広先生 **B,C,D,E**：オンラインWS（桜樹館）マリア・ルビオ・カロさん、ヘマ・ガルベス・ルイスさん、寿寛福 **F**：奉納舞踊（八坂神社御旅所）八坂神社小方礼次宮司、ヘマさん、寿寛福 オンラインWS（山口県立大学）**G**：Hui Aloha Yamaguchi、山口県立大学生、寿寛福 **H,I**：山口スペイン・ナバラ協会、山口県国際課、山口県立大学ウィルソン・エイミー教授、ヘマさん、花柳寿寛先生、佳枝広先生、寿寛福

山口祇園祭女神輿

福澄 久美子（会員No.808）

日常は未来の山口市を支えてくれる子どもたちのお世話をして42年目、保育士の福澄久美子です。子供たちは何にでも興味津々で瞳をキラキラ輝かせて笑顔いっぱい日々成長しています。そんな子どもたちから生きるエネルギーを沢山もらって過ごしています。

生まれてからずっと暮らしている山口市には600年の歴史を持つ山口祇園祭があります。

7月20日の御神幸祭、24日の御中日祭、27日の御還幸祭があります。そのうち27日の御還幸祭の八角、六角、四角の神輿のうち四角を、女神輿として女性が担ぎます。

私も何時か担いでみたいとずっと思っていたのですが、なかなか勇気が出ず思いだけが強くなっていました。そんな時に「一緒に担ぎましょ」と声をかけていただき、いよいよその時がやってきました。

初回当日は不安とワクワクする気持ちが入り乱れていたのを鮮明に覚えています。ヘアーは地元美容組合の先生方に素敵にセットして頂き、紅いルージュ、目元には紅いラインを入れ粋な法被に袖を通しました。諸注意を商工会議所で聞き御旅所にはいりました。神事の後いよいよ出発の時を迎えました。笛と掛け声で息を合わせ肩に乗せました。神輿は1tの重さがあり、それを30人で担ぐのですが、ずしっとくる重さに驚きました。

「わしょい」の掛け声で動き出すと「やっと担ぐことができた」と言う喜びが込み上げてきました。肩にかかる重みを感じつつ、駅通りや商店街の真ん中を神輿を担ぎ周りの観客に応援されて歩く事は、まるでアイドルになった様な錯覚さえ感じる程でした。

その後も毎年夏には女神輿を担がせていただくことができ、何時のころからか参加者のお世話をさせて頂くようになり、だだの担ぎ手よりもお祭りにより関わらせて頂くようになりました。

しかし、全世界に激震を与えた新型コロナウイルスにより4年間もの間神輿を担ぐ事ができなくなってしまいました。昨年はウイズコロナからアフターコロナになり、再び神輿を担げることになりましたが4年という時間は女性にはとても長く、担ぎ手募集の案内を送っても転居などで半数は行先不明で送り返されてきました。それでも、神輿を担ぐ事を楽しみにされていた方や新しく加わった方々70名が集まりました。防府天神女神輿の方々や地域の男性の方の協力を頂き何とか八坂神

社へと運ぶことができました。

今年は何とか女性だけで神輿を担ぎたいという想いと、未来永劫この歴史ある女神輿が続くようにと担ぎ手の募集に力を注ぎました。いよいよ迎えた当日は102名の美しい担ぎ手が終結しました。昨年よりも30名以上多く集まって下さいました。しかも、3分の2は初めての参加の方々で、お世話をさせて頂く私たちに緊張が走りました。安全に巡行し、粋で艶やかな神輿でお祭りに華を添えなければいけません、少しでもバランスを崩したら大事故に繋がります。巡行中2度程3基の神輿が魔法の屋根の下で同時に回る見せ場がありましたが、無事回すことができお祭りは最高潮を迎えました。

観客の方々もとても喜んで頂きました。担ぎ手の皆さんはどの方も笑顔で担がれ、無事に八坂神社に奉納することができました、私といえば必死さのあまり笑顔を見せる余裕はありませんでした。

安全に担ぎ終わった安心感と来年はもっと人数を増やしより良い女神輿になるように、微力ながら更に精進したいと思います。



【女神輿の担ぎ手(申神本部長も参加)】



【女神輿の担ぎ手&世話人(筆者)】

スペイン・ナバラ州・ナバラ県・パンプローナ市
『Parque de Yamaguchi (山口公園)』回顧録

多々良 健司 (会員No.517)

この度、山口スペイン・ナバラ協会の会長に就任した多々良です。きっかけは姉妹都市提携を記念してスペイン・パンプローナ市に「Parque de Yamaguchi (山口公園)」を企画設計した縁です。

○『Parque de Yamaguchi』開園

- ・1997年6月29日(日)夕刻、山口市民訪問団40名がパンプローナ・ノイアン空港着。
- ・6月30日(月)12:00 パンプローナ市役所表敬訪問。

夕刻から開園式準備 寄贈銘板の設置、提灯(400個)飾りつけ・ろうそく点灯、お茶席設置・接待、『大内のお殿様』踊りの準備。

21:10 開園式。両市民混ざり合っ『大内のお殿様』で練り歩き。

- ・7月1日(火)市内見学、夕刻『ハビエル城』へ。
- ・7月2日(水)バルセロナへ移動、7日(金)帰山。

○『Parque de Yamaguchi』概要

- ・1995年2月17日 姉妹都市締結15周年を記念しパンプローナ市よりアルクレッド・ハイメ市長他訪問団が来山。

*姉妹都市の歴史は、『山口スペイン・ナバラ協会』HP参照。

- ・1月6日早朝に山口市国際交流室から山口市造園協会(弊社の先代が会長)宛てに一報。至急打合せしたい、と。

・パンプローナ市街地に新たに整備中の公園(約1万㎡)に姉妹都市提携を記念して公園(日本庭園ほど凝ったものでない)を先方が希望されている。来月、記念式典時にプレゼンしてほしい。

*因みに、山口中央郵便局近くの一の坂川の千歳橋上に『スペインパンプローナ』広場が設置されている。

・超特急でパースを作成。ハイメ市長の反応を見て設計に取り掛かる。中央の池(約3千㎡)を中心に、6千㎡のゾーンをいただく。

・日本の伝統的な作庭『池泉回遊式庭園』形式をベースに、山口の自然を彼の地を感じれるように構想。主な施設は、築山・滝流れ・石橋・八つ橋・飛石・景石・乱杭・州浜・四阿・延段・植栽。

・現地の材料調達で苦労したのは、露頭石。ピレネー山脈手前のあらら山頂に協会を作るとき道を作った時の石があるとのこと。山腹の谷底に一人で詮索に。無事500tゲット。

*山口スペイン・ナバラ協会で作成したYou Tube参照。

○姉妹都市パンプローナ市

・フランスとの国境沿いに聳えるピレネー山脈のふもとに位置し、ナバラ県の県都。『ナバラ王国』中世に栄えた古都、『サンフェルミン祭』が有名。

・材料調達のため事前調査に行ったとき、山口市出身パンプローナ市在住の王子ご夫妻に昼食に誘われた。人生初の西欧料理に舌鼓。なんでも、フランス料理とブドウ栽培がフランス革命時にピレネー山脈を超えてきたとか。ワインの美味しさにはまったのもこの時。

○アマイア・ロメロ

- ・パンプローナ市出身、いまやスペインの歌姫。
- ・昨年、『日本のクリスマスは山口から』イベントで初来日、初来山。『Parque de Yamaguchi』ですごした少女時代の歌を披露していただきました。感慨深い。



日本とベトナムの幼児教育の違いを音楽の視点から見て

ふるさと山口本部・幹事 木橋 奏子（会員No.841）

こんにちは！山口市でピアノ教室をしています木橋奏子と申します。

私は大学卒業後、故郷の山口に戻り、ピアノを中心とした教育活動に従事してきました。現在は防府市の山口短期大学で、保育士をめざす学生たちとともに楽しく働いています。

さて、今回は「日本とベトナムの現地の幼児教育の違い」を音楽の視点からお伝えしたいと思います。私はこの2年間で2度ベトナムを訪れる機会があり、その際に現地の幼稚園教育システムに触れましたが、日本と比較すると、多くの相違点がありました。

まず、ベトナムの教育・保育システムには、日本と異なる部分が多く見受けられました。一見するとシステムが整っているように見えますが、実際には十分な裏付けが構築されていない点が目立ちます。

例えば、給食や衛生管理といった基本的な部分から、各専門的分野の教育に至るまで、深い部分では不足していると感じました。特に幼児音楽教育においては、音楽専科の先生方の拍の取り方や調性、音楽的表現が難しく、違和感を覚えるものがありました。

の中での音楽基礎理論教育、表現活動、リトミックと比較すると、日本の保育士養成校との基礎の違いが顕著に感じられました。

今後、経済発展が著しい東南アジアでは、日本と同様の教育システムを導入することは難しいかもしれませんが、システムの重要性が一層増してくると感じています。人口増加に伴い、良質な幼児教育と保育が求められる中で、私自身何ができるか、どのように貢献できるかを考え続けていきたいと思っています。そして、いつか私も、日本とベトナムの良い点を取り入れた幼稚園を作り、子どもたちの成長を音楽を通じて関わっていただくと考えています。

これからも音楽での教育活動を通じて豊かな心を育み、子どもたちの成長を支えていけるような手助けをしていければと思います。



【リトミック研修会を行った(ハノイ市幼稚園)】

日本の教育・保育システムは、国や地方公共団体、法人によって運営され、保育士養成校は原則として厚生労働省が認可した社会福祉法人のみが運営できるという厳しい基準が設けられています。このシステムは、教育の質を保証するためのものです。

一方で、ベトナムでは個人経営や営利目的の株式会社、有限会社が一般的であり、教育の質を保証するシステムが未整備であると感じます。

また、現地で教える先生方は、教育系の大学を卒業しても教育免許を持たないまま教育現場に立つことが多く、前述しましたように幼児教育の質にばらつきが見られました。音楽的な観点から見ても、簡単な伴奏付けやリズムの取り方が困難で、日本の保育士養成校の(私も普段行っている)授業



現地ではミニコンサートを行い、幼児参加型にして。日頃から歌われているディズニーや日本の曲(アニメ、ジブリ等)と一緒に歌った。



【音楽の先生たちと】



【日本のメンバーと現地の先生方と】

SNS への投稿で再認識した山口県の魅力

三戸 孝文（会員No.853）

昨年の2023年に会員にさせていただきました、三戸孝文です。
現在は、山口市平川に住んでいますが、休日は実家の徳地に帰って山や田んぼの仕事をするという生活をしております。

10年くらい前までは、自宅と職場の往復の毎日でしたが、現在はFacebookやInstagramを通じて生活にかなり幅が広がりました。

きっかけは、「山口県の会」というFacebookグループの管理者を引き受けた殊に端を発します。2014年の3月からですから、ちょうど10年になります。

今でこそメンバー数は6,000人弱まで増えてきましたが、当時は200人足らずで投稿数もわずかでした。

なので、まずは自分が毎日でも投稿して面白い内容にしていこうと思い、ちょうど萩市笠山の椿まつりが行われていたので、その様子を写真に撮り、帰りに寄った道の駅「萩しーまーと」で買ったわかめむすび等も載せたりしました。そうしますと、それなりに反応もあるので結構面白いんですね。

そんな感じで、県内の観光名所、お土産などを紹介していくうちに、「いいね!」の数やコメント数も増えて、メンバーも徐々にではありますが増えていくようになりました。

ある時、現在は関東で活動されておられる山口県出身のミュージシャンの方がメンバーになられ、その方が地元に戻られてライブをされる時は、そのライブ会場がオフ会のような感じになりました。この時にメンバーの方たちと初めてお会いすることになりますので、それがまた、とても新鮮でした。

また、空いた時間を利用して色々な場所へドライブを兼ねて行ってみました。山口県は道路がとても良く整備されているので車を走らせるのにも、とても快適です。

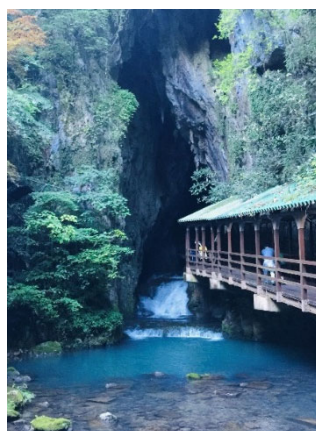
山口市を中心に北側から西側にかけてが多いですが、角島大橋を渡った時の海の綺麗さはびっくりでした。

多くの観光名勝を誇る山口県ですが、その一方で例えば山口大学通りとか山口市商店街の現在の様子を載せると、学生時代を山口市で過ごされて、今は他県でご活躍されている方たちがとても懐かしがってくださったりもしました。

イベント事でいいますと、山口祇園祭の市民総踊りや女神輿なども、Facebookに投稿するのがきっかけで見に行くようになりました。そう意味では、Facebookには感謝しています。

以前、他県から転勤してこられた方が、「週末は子供を連れて県内の色々な観光地に行くんだよ。山口県は、本当にいいところだね。」と言っておられたのを思い出しましたが、実際に自分で行ってみてその様子を写真に収めてみると、本当にその通りだなと思います。

SNSで発信するようになってちょうど10年ですが、次の10年も引き続き多くの方たちに山口県の魅力を知っていただけるよう、頑張っていこうと思います。



【秋芳洞】



【萩市笠山椿祭】



【湯田温泉白狐まつり総踊りの後の記念撮影】

山口に恋して

須原 誠 (会員No.867)

小生は、人情味溢れる人々と豊かな自然が創り出す、山口に恋しております。一ノ坂川の桜、徳佐の枝垂れ桜、鑄銭司の菜の花などが春を彩り、湯田温泉の白狐まつりが過ぎると川に蛍が飛び交い、そして夏が訪れます。阿東の空の天の川、祇園祭、ちょうちん祭、そして紅葉がやってきます。瑠璃光寺、雪舟庭、龍福寺など街中から長門峡にかけて秋色に染まり、それが冬へと緩やかに時間が流れていきます。冬の星空は、さらに美しさを増し、時折、雪で山や街を白くお化粧してくれます。この小宇宙で息子を育てたい。そう思い、実は息子が小学6年生の2021年に、移住可能かどうかを真剣に試みさせて頂きました。残念ながら、息子は千葉県養護教育センターと連携しながら普通校に通わせて頂いていたので、この状態での転校は難しいと判断しました。その代わり、息子を夏休み、秋休み、冬休み、春休みに「山口に国内留学」させる事を決意しました。小生自身は、毎週水曜日を軸に、千葉から山口に毎週通い週の4分の1を山口でお仕事をさせて頂く生活を、2020年9月から4年間続けさせて頂いております。そして息子は独りで千葉から新幹線に乗り、春休み、夏休み、秋休み、冬休みに父親と合流し、山口に国内留学(プチ移住)すると言う生活を過去3年間続けさせて頂いております。山口国内留学で出会った皆様のお陰で、息子を独立心と行動力旺盛な人間に成長させて頂き、心より感謝しております。

はじめまして。須原誠(すはらまこと)と申します。小生の一人息子は幼稚園の時、発達障害と診断されました。親として、息子が普通の学校に進めるようにするにはどうしたら良いのか?と真剣に考え抜いた結果、ICT・デジタル化教育で彼の学習能力を補助してあげようと思い立ちました。ご存知の通り、エストニア共和国は世界トップクラスのデジタル先進国です。特に医療と教育の分野のデジタル化は世界最高峰です。そのエストニア教育法を自己学習させて頂き、それを息子に適用し実質的な成果を出していた事がご縁で、エストニア共和国政府から在日エストニア共和国全権大使の特別補佐官、そしてエストニア経済通信省配下のエストニア企業庁の日本支局長を2019年に拝命させて頂きました。その立場で、山口市とのご縁を賜り、山口市スマートシティ推進協議会のアドバイザーを2020年12月に拝命させて頂きました。

山口の皆様と関わらせて頂く過程で、「よそ者」として、ある事に気づきました。山口県とエストニア共和国の人口は約130万人でほぼ同数、そして県庁所在地の山口とエストニアの第二の都市タルトゥは、共に複数の大学を持つ学園都市であり古い歴史を持つ自然豊かな文化都市。山口は、大内文化を土台としつつ長州藩的独立の気風と文化が今も存在しています。その姿は、山口県とほぼ同じ人口のエストニア共和国がEUに加盟しながら独立国として存在している姿と重なりました。もしもエストニア共和国をお手本にしながら、山口の「小宇宙」を自然豊かなままデジタル化できたのなら、「YAMAGUCHI モデル」という新しい未来を創れるのではないかと。そう思った瞬間から、小生は山口に恋してしまいました。そして山口以外の10数以上の他の自治体のアドバイザーをさせて頂いている事が、浮気をしているように思えてきました。他の自治体のアドバイザーを辞して山口だけに一途になりたい。しかし国際公務員の立場では一つの地域をエコひいきできない。ではどうするか?その答えが、エストニア共和国との関係を維持しつつ、2021年4月に青山学院大学SDGs/CEパートナーシップ研究所に移籍し、その立場で、本年度もアドバイザーの任を続けさせて頂く事でした。そして山口大学の松野副学長やその他多くの先生と共に、エストニア共和国のタルトゥ市をお手本として、山口市の医療と高等教育のデジタル化、湯田温泉を中心としたウェルネスツーリズムの開発、阿東の自然を活かした国内留学プログラムの開発に挑戦させて頂いております。

先日、やっとニューヨークタイムズが山口の小宇宙の素晴らしさに気づいてくれました。ニューヨークタイムズの「山口推し」は、山口という「小宇宙」の価値がグローバルレベルで証明されたと信じております。「YAMAGUCHI モデル」は山口だけでなく、日本社会に新しい未来を提示できると信じております。小生の山口への恋は、まだまだ片思いかもしれません。この思いが、両思いにさせていただけるよう、日々精進させて頂きたく存じます。今後ともご指導ご鞭撻の程、宜しくお願い申し上げます。

外から見る山口の世界

影山 絵里子 (会員No.793)

私は山口市育ちで、大学から東京に出てきて、山口で過ごした時間より長くなりました。母は下関育ちですが、父は大阪出身。仕事がきっかけで山口にきて、母と出会い、山口に住まいを構えました。

父は、芸術学、茶の湯文化学 of 研究者で、水墨画で有名な雪舟の研究もしていました。その影響で、雪舟の終の棲家である雲谷庵の近くの「天花」が本籍の住所となっていました。

今年1月に山口市がニューヨークタイムズ紙の「2024年に行くべき52カ所」の3番目に選ばれたのは山口の方ならご存じかと思います。

一気に、日本中にニュースとして広まったわけですが、ネットで検索してみると「山口市 ニューヨークタイムズ なぜ」が予測検索の上位で表示されるのです。まだまだ山口のどこが魅力なのか？を知らない人が多いのでしょうか。私も山口市のどこに魅力があるのか？をもう一度振り返ってみるべく、今年2月に山口に帰り、記事で紹介されている場所を中心に歩いてみました。

スタートは、湯田温泉のホテル。そこから、母校の山口高校を通り、サビエル記念聖堂横を抜けて、瑠璃光寺五重塔へ。現在の五重塔の外観はお察しの通りですが、大内弘世像は堂々と佇んでおられました。馬は京都の方向を向き、弘世公は山口の街並みを見ているこの像は、本当によく考えられた像だと思います。



【昼と夜ライトアップされた瑠璃光寺五重】

瑠璃光寺を後にし、細道を通り、住宅街の奥地にある雲谷庵に向かいます。見逃してしまいそうな場所にありますが、雪舟がこの地で最後を過ごし、かの有名な水墨画の四季山水図を描いたとは、なんともロマンチックです。そして、ちいさなお庭にある石段を上がるとちょうど瑠璃光寺五重塔が見えるのです。雪舟はこの場所を気に入っていたに違いありません。



その後、野田神社能楽堂を通り、八坂神社から龍福寺へ。龍福寺に立ち寄ったのは初めてかもしれません。ニューヨークタイムズの記事でインパクトを与えた紅葉回廊の写真の場所ですね。今年の秋は多くの方が紅葉狩りを楽しみに来られるのではと思っています。

その後、行ってみたかった山口駅近くのまるまつ食堂でランチを食べて、最後に兄弟堂で外郎の歴史を聞き、外郎を買って、ホテルへ戻ってきました。

総時間5時間、総歩数2万5千歩。

5時間のウォーキングでは、瑠璃光寺五重塔、まるまつ食堂、兄弟堂での地元の方とのふれあいがあり、とても楽しかったのです。京都のビッグ観光都市では交わることできない地元の方とのんびりとしたふれあい、そこから生まれる新たな山口の魅力。都会に住む多くの人の癒しにもなり、海外の方にとっては、東京・大阪などの大都市とは違った日本の地方都市の魅力となると思います。

ニューヨークタイムズでは、地元の方たちの人柄も評価されていたと思いますが、個人的には、人見知りで少し閉鎖的な感じもあるなと思っています。ぜひ、山口へ来てくれた方に、山口の魅力を伝えてください。みなさん一人一人が山口の広報担当者です！

「山口が好き」の想いが伝わると、観光客の山口旅行の思い出や記憶も大きく変わってくると思います。

あとは、「山口の好きなもの、ところ」をご自身なりに語れることが大切だと思います。

私の山口三大好きなものは、「瑠璃光寺五重塔、外郎、かまぼこ」です。

山口県外に出てみて、改めてどこにも負けないものだと思います。



関周（せきあまね）さんコンサート♪～『まり祭』にて～

本部・幹事 岡崎 龍也(会員No.702)

2024年7月30日（火）山口七夕会会員関周さん（会員No.726 山口七夕会 評議委員）が、作詞家米田まりさんの音楽祭『まり祭』（東京・内幸町ホール）で歌いました



関さんは2019年1月「パパの作りばなし」でCDデビュー。前年の7月都内であった作曲家米田まりさんのコンサートに関さんが出演したことがきっかけ

となりました。共演していた作詞家の伸我（しんが）さんが関さんの歌声や人柄を気に入り、伸我さん作詞、米田さん作曲の作品を歌うことになりデビューしました。

『まり祭』は米田まりさん作曲の曲を中心にしたコンサートで定期的開催しており、今回は10回目、関さんもデビュー以降参加しています。



【「まり祭」で歌う関周さん】

本日、関さんは第二部「伸我コーナー」に出演、「パパの作りばなし」「波に寄せて」（CD「パパの作りばなし」に収録）を歌い、観客を魅了しました。本日のコンサートは特別企画としてBS12で9月29日（日）04:30～05:00「あなたに届ける音楽会」で放映されます。

関さんは幼少期に習っていたピアノを30代後半に再びはじめ音楽活動を開始、2007年に関周 作詞作曲「草原」をリリース（「草原」は2021年にロマンチック☆安田さんらの6ピースバンド、白



【米田まりさん、伸我さんとトーク】

山羊舎（はくさんようしゃ）が再リリースしました。）。

2012年リリースの「小高い丘」（作詞作曲 関周）は、山口の病氣療養中の一人の友達の為に関さんの中学時代の6人の仲間が集まったバンド「カメラマーズ」が友情をテーマに歌う曲です。

2024年3月には新曲「雨上がりの午後」（作詞作曲 関周）をリリース、制作を全て、関さんが経営しているピアノ・バー【ミュージカントあまね】（東京都北区）に集まる若手アーティストが担当しました。

2024年4月には故郷山口市「赤れんが」で開催された山口七夕会、山口蘭子さん主催「山口ふるさとライブ」にも出演しました。



【ミュージカントあまね】では、お店に集まる若手アーティスト、ロマンチック☆安田さん、中野ミホさん、ニイマリコさん、吉田未加さん（山口七夕会会員）らの音楽サポートを手掛けるほか、昨年には、妹、関己珠恵さんと一緒に絵本「キノハネ」（原作 関周、絵 関己珠恵）を出版するなど活動の幅を広げており、アーティストとして今後益々の活躍が期待されています。

毛利藩の家紋

河合 正克 (会員No.294)

テレビ番組の時代劇を見れば、日本史が苦手でも面白く概略が理解できる。源平合戦、川中島の戦い、関ヶ原の戦い、そして鳥羽・伏見の戦いなど、戦略や武勇を後の世に伝えるものがある。平家物語は平家の栄華と没落を書いた軍記物語で「祇園精舎の鐘の声」の書き出しで有名である。戦国時代の武田信玄と上杉謙信の川中島での長い戦いは見ごたえがある。川中島で翻る「武田菱」と「竹に二羽飛び雀」ののぼり旗が印象的だ。豊臣政権と徳川家の争いは関ヶ原で、「五七の桐」と「三つ葉葵」が激突する。われら長州人が忘れられないのは禁門の変である。1864年(元治元年)7月、京都での攘夷派の勢力挽回を策した長州藩と京都を守る会津・薩摩藩を中心とする公武合体派軍との軍事衝突である。この衝突の前に、尊王攘夷を主張する長州藩は1863年(文久3年)8月18日の政変で公武合体派の会津藩や薩摩藩らの諸藩兵により京都から追われ、朝廷の九門の一つ、禁門警備の任を免じられ、藩主が処罰された。長州藩には、京都を脱走した七卿や真木和泉らの浪士も集結し、失地回復をめぐって進発論や慎重論が渦巻いた。6月に池田屋事件で志士が斬殺され、進発論が進むが、挙兵を起し、7月19日、京都内外で勇ましく「一文字三ツ星」の長州藩兵と「丸に十の字」の薩摩、会津、桑名諸藩兵が交戦した。長州は、来島又兵衛ら多数が戦死し、久坂玄瑞、真木和泉らが自殺した。京都は約3万戸が焼失し、7月24日、長州追討の朝命が下る。この続きは、鳥羽伏見の戦いから戊辰戦争に至り日本国内の最大の内戦は終結する。

閑話休題

私が現役の昭和40年代、東北の金鉱山を調査、開発した。最近この地を旅することになった。NHKの大河ドラマ「鎌倉殿の13人」が放映されたところである。ドラマの舞台の伊豆半島は金鉱山もさることながら温泉地でも有名だ。源頼朝と北条政子や北条義時らの遺跡が多い。地域興しのため、伊豆箱根鉄道沿線には、「鎌倉殿の13人」ののぼり旗がはためいていた。葦山駅の前には、葦山時代劇場が開場していた。ドラマでは闘争と粛清の鎌倉時代の幕開けである。執権義時と天皇家との争いの「承久の乱」に至る。私が東北に旅をしたのは、2023年の大河ドラマが終了した翌年だっ

た。私が立ち寄ったのは、山形県西村山郡西川町である。そこには、伊豆箱根鉄道沿線と見間違えるような「鎌倉殿の13人」ののぼり旗がはためいているのである。驚いて西川町歴史資料館に伺って仔細を訪ねて納得したのである。そこは、大江広元子孫の屋敷跡で、親弘の五輪塔があった。大江広元の嫡男親弘の寒河江荘である。大江広元は鎌倉殿直属の家臣で、平泉藤原氏が滅びたことにより、全国各地の一部所領を保有し、幕府の屋台骨を支えた存在だった。令和5年3月25日山口七夕会の講演「文士・大江広元と武士・毛利秀光」を拝聴された方は詳しく理解されたと思う。大江広元の家紋が「一文字三ツ星」であり、当然大江の子孫である毛利氏(長州)は鳥羽伏見の戦いで「一文字三ツ星」ののぼり旗をなびかせていたのである。私は山口市堅小路で生を受けたが、果たして長州人なのだろうか。母方の祖先は周防大島の磯兼加賀守景道に係っていると聞く。



山口県の学校給食パンは県産原料 100%

松崎 博明（会員No.877）（新会員）

山口市名田島にある有限会社名田島農産で働いている松崎です。（有）名田島農産は山口県下一の小麦産地の山口市名田島地域で米・麦・大豆の生産（経営面積、米70ha、麦60ha、大豆10ha）と、餅や米粉などの農産加工をしています。また私は山口県製粉協議会の事務局長もしています。

山口県の学校給食のコッペパンは、県産小麦90%+県産米粉10%と、山口県産原料100%で焼き上げられています。

県産原料100%の学校給食パンは北海道に次いで2番目の快挙です。

この地域資源ともいえるべき、コッペパンを広く山口県民の消費者に普及していき、地産地消の推進を図りたいと考えています。

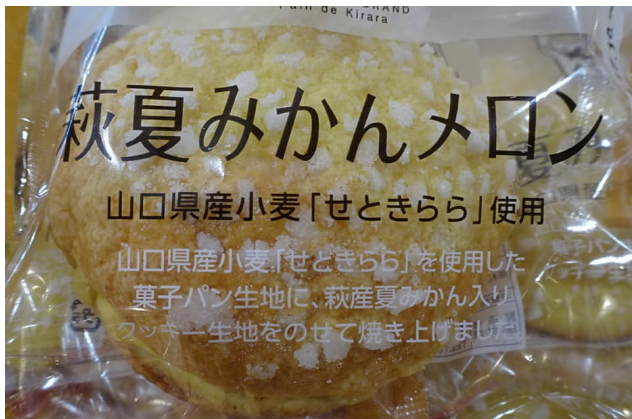
山口県製粉協議会では、山口市内の道の駅等や山口市南部特産品開発会議の事業者並びに山口県菓子工業組合等の協力を得ながら、県産原料100%（県産小麦90%+県産米粉10%）でつくられたパンを、「やまぐちのコッペパン」として、山口県内の一般消費者にも販売してもらい、広く普及していこうと考えています。是非、皆様方のご協力をお願いします。



【山口市名田島での麦の収穫風景】



【学校給食のコッペパン】



【山口県産小麦(せときらら)使用のメロンパン】



【山口県産小麦を使用したパンのラインナップ】

＜ 新入会員(個人会員番号・氏名)及び法人会員の皆さん ＞

《令和6年6月号掲載以降の新入会員》 ※氏名、住所は公開会員名簿への掲載承諾者のみ

会員番号	氏名	住所	法人会員
544	青木克己(再入会)	山口県山口市	山口日産自動車株式会社
876	末富 喜昭	山口県山口市	旭水産有限会社
877	松崎 博明	山口県山口市	株式会社 常盤
878	松本 智博	山口県宇部市	株式会社 地域情報新聞
879	石川 敏雄	東京都稲城市	株式会社 技工団
880	津山 典久	東京都東久留米市	有限会社 劇団角笛
881	中村 誠	山口県山口市	マルシフードサービス株式会社
882	井上 淳一郎	東京都品川区	社会福祉法人青藍会
			株式会社セブンシステム
			株式会社光華
			株式会社ベルミューズ
			一般社団法人日本自動車連盟山口支部(JAF 山口支部)
			株式会社アドギルド・ジャパン
			弁護士法人 末永法律事務所
			BRAIN SIGNAL 株式会社
			公益社団法人 山口被害者支援センター
			株式会社 小郡衛生公社
			株式会社 エフエム山口東京支社
			株式会社 竹内酒造場
			C & C 山口
			湯田温泉旅館協同組合
			公立学校共済組合山口宿泊所 セントコア山口
			株式会社 クリエイティブ・トゥエンティワン

令和6年8月23日現在の会員数：個人会員375 法人会員23

＜ 新任・再任の山口七夕ふるさと大使委嘱者 ＞

	会員番号	氏名	新任・再任	
1	860	杉山 敏美	新任	年次総会（東京8/3）で委嘱
2	876	末富 喜昭	新任	ふるさと山口本部総会（山口8/10）で委嘱
3	39	山根 和也	再任	年次総会（東京8/3）で委嘱
4	416	大枝 幹夫	再任	年次総会（東京8/3）で委嘱
5	274	藤井 邦夫	再任	年次総会（東京8/3）で委嘱

「役員一覧（令和6年8月3日現在）」

下線が変更部

《山口七夕会役員》

役職	氏名	備考
会長・評議員	秋草史幸	代表、総会・評議員会議長
副会長・評議員	藤井謙志	会長補佐・個人情報取扱責任者・本部本部長
副会長・評議員	申神正子	会長補佐・ふるさと山口本部本部長
評議員	関 周	会計・本部幹事長
評議員	庄栄一郎	機関紙編集長・ふるさと山口本部事務局長

監査役	大枝幹夫	本部担当
監査役	伊藤満宏	ふるさと山口本部担当

《本部役員》

役職	氏名	備考
本部長	藤井謙志(再掲)	本部統括・ゴルフ部会長
本部長代行	西村弘文	広報統括(東京・山口)
副本部長	岡本達也	本部長補佐・情報発信
幹事長	関 周(再掲)	会務総括・会計
副幹事長	村中正司	幹事長補佐(関西常駐)
幹事	岡崎龍也	会計補佐
幹事	田村廣修	山口七夕会ホームページ管理
幹事	小野美穂子	イベント企画
幹事	神原昭彦	会員増強
幹事(新任)	<u>吉田美香</u>	<u>イベント企画</u>
顧問	武内衛子	
顧問	山根和也	
監査役	大枝幹夫(再掲)	

《ふるさと山口本部役員》

役職	氏名	備考
本部長	申神正子(再掲)	本部総括
副本部長	松西照美	本部長補佐
事務局長	庄栄一郎(再掲)	会務総括
幹事	柴田尊明	事務局長補佐
幹事	森永友世志	<u>事務局長補佐</u>
幹事	<u>住田輝明</u>	<u>事務局長補佐</u>
幹事	中野邦夫	会計
幹事	関 和貴	楽農部会長
幹事	嘉瀬 修	日本酒部会長
幹事	<u>河村 香</u>	<u>日本酒部会長補佐</u>
幹事	山下りえこ	音楽部会長
幹事	<u>木橋奏子</u>	<u>音楽部会長補佐</u>
幹事	吉原真也	
幹事	杉本理恵子	
幹事	<u>奥田和彦</u>	
幹事	渡邊史信	アドバイザー
顧問	山本和生	
監査役	伊藤満宏(再掲)	

< **令和6年度山口七夕会ふるさと山口本部 “秋の講演・交流会”** >

- 日時：令和6年10月19日（土）18：00～21：00
- 場所：セントコア山口（山口市湯田温泉3丁目2-7）
- 内容：【講演会】18：00～18：50
講師：田中マキ子（山口県立大学学長）
演題：『山口県を元気にする高等教育の挑戦』
【交流会】懇親会 19：00～21：00
- 会費：7,000円（非会員は+500円）
※詳しくは、同封のチラシをご覧ください。

< **山口七夕会 第10回八木重二郎杯 会員親睦ゴルフ** >

- 日時：令和6年11月6日（水）8：50 キャディーマスター室前集合（予定）
- 場所：オリムピックナショナルGCイースト エーデルワイスオーキッドコース
埼玉県入間郡毛呂山町阿諏訪154
- 会費：プレー費+飲食費（昼食/表彰式：各自精算）
※詳しくは、同封のチラシをご覧ください。

< **山口七夕会 秋の交流会 ★屋下がいのジャズ～ふたたび～★** >

- 日時：令和6年11月23日（土）12：00～14：30
- 場所：インテリジェントロビー・ルコ
東京都新宿区揚場町2-1 軽子坂MNビル1F
- 内容：【美味しい料理と日本酒タイム】12：00～
【ジャズライブ】13：00～14：30
出演：Sax：飛松賢二、Pf：関周、Vo；吉田未加
- 会費：6,000円（食事&飲み放題つき）
※詳しくは、同封のチラシをご覧ください。

< **令和6年度 “秋の紅葉ウォーキング” 『浅草名所七福神巡り』** >

- 日時：令和6年11月30日（土）12：00～18：00
【ウォーキング】12：00～17：00
【懇親会】17：00～18：00
- ルート：浅草寺雷門前集合⇒浅草寺⇒浅草神社⇒侍乳山聖天⇒今戸神社⇒橋場不動尊⇒石浜神社⇒
吉原神社⇒鷲神社⇒矢先稻荷神社⇒浅草駅周辺（懇親会）⇒解散
※詳しくは、同封のチラシをご覧ください。

〈山口市役所より〉 世界で紹介された「西の京やまぐち」の魅力について

ニューヨーク・タイムズ誌「2024年に行くべき52箇所に国内で唯一山口市を選出！
～ 2024年、世界で紹介された山口市の魅力に触れ、自分をアップデートできる旅を ～

【山口市の魅力に世界が気付いた！】

本年1月、ニューヨーク・タイムズ誌に「2024年行くべき52カ所」の3番目に山口市が掲載され、国内外から大きな注目を集める中、同年5月、ニューヨークで開催され「ニューヨーク・ジャパンパレード2024」に国内の基礎自治体として初めて参加いたし、国内テレビキー局をはじめ、100を超える国内外のメディア、SNSサイトで紹介され、大きな反響をいただきました。



【ニューヨーク・タイムズ誌に掲載された龍福寺での画像】



【ニューヨーク・ジャパンパレード2024】

実際に、湯田温泉に宿泊される欧米からのインバウンド観光客は令和元年（コロナ前）と比較して倍以上に増加しておりますとともに、メディアを見たという国内の多くの観光客に来山いただいています。



【山口祇園祭2024】



【山口七夕ちょうちんまつり2024】

【「ガイドと巡るまち歩き」こそ、山口市のまちの魅力を実感できる！】

このニューヨーク・タイムズ紙「2024年に行くべき52カ所」は、編集部が旅行を専門とするライターやジャーナリストにお薦めの地域を推薦してもらい、精査して掲載されているものでございまして、いわゆる投票形式の人気観光地ランキングとは異なるものです。

この度、外国人の視点から評価をいただいた本市の魅力は、国宝瑠璃光寺五重塔に代表される「西の京」としての650年を超える歴史的な文化や、まちなか温泉である湯田温泉、そして、これらを継承し続けてこられた先達の“人”、これらを受け継いだこの地に、今、生活しておられる“人”に着目いただき、高く評価をいただいたものです。

例えば、国宝瑠璃光寺五重塔を中心に活動される「山口市観光ボランティアガイドの会」や「萩往還語り部の会」、全国でも先駆けて組織化されてきた「山口ゆめ回廊地域通訳案内士」のような方々が、「おもてなしの心」を持ちながら本市を訪れた方々に接してこられた活動も、評価されたポイントの一つと考えています。

この度の選出は、市民の皆様をはじめ全国、そして世界の皆様に、山口市の魅力、さらに言えば、日本の地方都市が有する価値について、改めて、着眼点や気付きをいただいた機会になったものと受けとめておりまして、改めまして、まちの色々なところで、そこに住む人々とコミュニケーションをとり、人の温かみ、まちの風情や情緒などに対して評価をいただいたと思っており、こうした視点を今後のまちづくりを進める上で、大切にしたいと考えています。

【山口市ならではの特別体験コンテンツをご用意！】

なお、本年は、本市の歴史文化と人々との「交流」をテーマに、大内文化を中心とした山口市らしい歴史、伝統、文化を体験いただける**特別体験コンテンツ※**をご用意しております。

山口市の**観光ガイドの皆さんとの会話を楽しみながら**、山口の町並みを巡り、様々な山口ならではの体験は楽しさ倍増、良き旅の思い出になることと思います。

※ 山口市ならではの特別体験コンテンツ

・山口の守護大名大内氏の最高傑作と謳われる国宝瑠璃光寺五重塔において、現在 70 年に一度の改修工事中ではございますが、改修中の今だからこそその体験コンテンツとして、塔を囲う覆い屋に投影するプロジェクションマッピングをはじめ、御成行列や大内蹴鞠体験など、本市ならではの特別体験コンテンツを実施しています。



【足利将軍が山口へ「御成行列体験」】



【大内氏が修練必須の技芸として取り入れた「大内蹴鞠体験」】



【国宝瑠璃光寺五重塔「プロジェクションマッピング」の開催】
※9月～12月期間限定開催

・ニューヨーク・タイムズ紙で紹介された「大内文化ゾーン」を巡るガイドツアー

完璧な庭園と評された国宝瑠璃光寺五重塔の建つ香山公園をはじめ、洞春寺や山口祇園祭ゆかりの八坂神社、京都の鴨川を模した一の坂川、ゆったりとした時間を過ごせるコーヒーショップなど、ニューヨーク・タイムズ紙で紹介されたスポットを地元ガイドと一緒に巡るツアーをご用意しております。



ニューヨーク・タイムズ紙に選ばれた山口市の「まち」の魅力と、周辺に 400 店舗を越える美食の飲食店が軒を連ねる「街なか温泉『湯田温泉』」、そして「人（山口市民）」の魅力に触れていただける山口市の旅をお楽しみいただきたいと思います。

2024 年行くべき山口市へ、是非お越しく下さい！

※ あなた好みの山口旅をプロデュース！山口市 SNS「山口カレンダー」(フォロワー数 1 万人超え)

～ 山口市での宿泊前後の時間も、山口市で楽しく過ごす ～

今、山口市で起こっていること、流行っていることを、山口のインフルエンサーからの魅力紹介と合わせて、官民イベントカレンダーから知ることができます！

SNS「山口カレンダー」をご利用ください ⇒



山口市交流創造部 観光交流課
《tel》083-934-2810
《E-mail》kanko@city.yamaguchi.lg.jp

< 会報山口七夕会への投稿を募集します >

1. 大使の一言(「山口七夕ふるさと大使」の皆さんの自己紹介記事やメッセージ)
2. 私の一言(会員の皆さんの自己紹介記事やメッセージ)

★テーマの一例

- (1) 山口市に関する豆知識
- (2) 山口県外にある山口ゆかりのものや活動
- (3) 今、思っていること

★字数

1,200 字程度の文章と写真 2 枚程度を基準。紙面構成上、フォント、行間等を調整します。

★投稿締切

6月号(5月中旬まで)、9月号(8月中旬まで)、1月号(12月中旬まで)

★投稿提出先

下記に電子データ(Word、形式)でお送りください。

会報山口七夕会編集長(庄 栄一郎): ssho04281103@hi.enjoy.ne.jp

< 重要 > < 公開会員名簿への掲載承諾のお願い >

会員相互の交流促進や会の活性化に役立てばと、記載事項を限定した「公開会員名簿」を作成・発行しました。作成に当たっては、名簿への記載についての承諾を必要としておりますので、今後、趣旨に賛同していただける方は、記載を承諾する旨を下記まで連絡願います。「公開名簿で懐かしい名前を見つけて交流が再開した」といったことになればと考えています。

記

メールの場合 : seki@8011.jp (関 周 宛)

郵送の場合 : 〒114-0034 北区上十条 3-3-16 関 周 宛

< 重要 > < メールアドレス登録のお願い >

2024 年、山口七夕会はライブや各種イベント、ウェブ抽選会など「新しい企画」にどんどん取り組んでいきます。

新しい企画はメールを主用してご案内していきますので、メールアドレスの登録をお願いします。

現状、個人会員 375 名のうちでメールアドレスを登録されている方は 251 名ですが、その内の 37 名は送信不能ですので、既に登録されている方も確認のため再度登録をお願いします。

【登録方法】

●QRコードリーダー付きのスマートフォンから登録される方は、右のQRコードを読み込んでください。



●パソコンから登録される方は、本文にご自分のメールアドレスを入力して、「seki@8011.jp」にメールを送信してください。

【事務局からのご案内】

- ◎転居されるご予約のある方は…転居予定日、転居先を任意の様式でかまいませんので、下記までご連絡ください。(ご連絡がないと会報 山口七夕会や市報等の資料が届かなくなってしまう)
- ◎退会を希望される方は…退会されるのは残念ですが、任意の様式でかまいませんので、下記までご連絡ください。(会員録の整理などの事務手続に必要となります)

★事務局(山口市企画経営課内)
〒753-8650 山口市亀山町2番1号
TEL 083-934-2746
kikaku@city.yamaguchi.lg.jp

【編集後記】

会員の皆さん、今年の夏は特に猛暑でしたがお元気でお過ごしでしたでしょうか。兼好法師は徒然草で、「家の作りやうは夏をむねとすべし」と書かれていましたが、そのことをいやというほど実感した今年の夏でした。

さて、今回の表紙の写真は山口祇園祭の御還幸祭の女神輿。

担ぎ手で世話人でもある福澄久美子さんの寄稿文(P14)によると、例年より30人多い102人の美しい乙女が集まり、重さ1tの神輿を30人で担いだとか。どの業界でも「担い手不足」が喫緊の課題の昨今、重たい神輿の担ぎ手が30名も増えるって山口県の観光キャンペーンではありませんが、まさに『YAMAGUCHI MAGIC!』。

このことから山口市って「女性が生き活きと活躍する街」だなあ、と。

山口七夕会会員の最高齢(96歳)は、中原中也記念館名誉館長の福田百合子先生。法人会員でもある「西の雅 常盤」の「女将劇場」の女将は90歳。秋の講師をしていただく山口県立大学の田中校長も女性。

山口市議会の入江議長も女性、山口七夕会ふるさと山口本部も本部長、副本部長は女性、ふるさと山口本部役員18人中6人は女性。ふるさと山口本部の講演会の講師もR6年度は夏(神田京子さん)⇒秋(田中マキ子さん)⇒盂蘭盆会(岡田かずえさん)と女性が続きます。

日本史で女性が活躍した時代といえば、NHK大河ドラマ「光る君へ」への時代。藤原道長が賢く、安定した政治をしたことが素晴らしい女流文学が多く生まれた要因の一つ、と何かで読んだことがあります。

とすれば今こうして山口市で女性が生き活きと活躍している要因の一つは、伊藤市長によるダンディーでかつ安定した市政運営によるのではないのでしょうか。

伊藤市長におかれましては、山口七夕会の行事にも極力参加し会を盛り上げていただき感謝しています。このいい流れを持続発展させ、世界に誇るべき「新しい山口文化」を創っていきましょう。

それと今号の寄稿で特に自分が勉強させていただいたのが山口市スマートシティ推進協議会アドバイザー須原誠さんの「山口に恋して」の寄稿(P18)。自分は「地方公務員」ですが、「国際公務員」という言葉も初めて知りました。また山口県とデジタル先進国エストニア共和国との共通点から「エストニア共和国の第二の都市タルトゥをお手本として、山口の「小宇宙」を自然豊かなままデジタル化(医療と高等教育のデジタル化)できたら「YAMAGUCHI モデル」という新しい未来が創れるのではないか?」という意見。

今回の会報(55号)、山口愛に溢れた色んな分野の方に寄稿していただき感謝しています。